

●生産振興に向けて！ 県産品ブランド化、生産基盤強化

- 藍関連製品 伝統工芸の良さの再発見と新分野開拓を支援
高校生による藍染め製品開発やLEDと組合わせた製品開発
- 小規模事業所の承継を推進
技術や伝統を継承し、本県経済の持続的な発展へ
- 農林水産総合技術支援センター（水産研究課美波庁舎を改築）
海水温上昇・栄養塩減少による不作や品質低下への対策

「藍」を徳島ブランドの牽引役として県産品のブランド化を進めるため、技術や伝統を次世代へつなげるとともに、新分野開拓や品種改良などさらなる生産振興や基盤強化が必要である。



藍染めしじら織 県内視察



水産研究課 品種改良・新技術開発



「でり-ぱりキッチン阿波ふうど号」



魅力の発信源となるターンテーブル



廃校を活用した農泊（西祖谷）



徳島阿波おどり空港
出入国検査場、税関検査場等整備

●徳島の魅力を国内外に発信！

- 新型県産食材 PR 車両による試食・販売促進を強化
旧型「なっ!とくしま号」より小型になり機動性がアップ
- 「ターンテーブル」 奥渋谷に2月オープン
県産品の販売、県産食材を食べて泊まれることで、いろんな人が集い、五感で徳島県の良さを感じてもらえる
ターンテーブルによる魅力発信に大いに期待する一方で、事業展開にあたり運営方法や収支見込、波及効果などについてチェック機能が働くよう、委員会において質問・要望
- 外国人観光客が増加している県西部（ラフティング世界大会 等）
自然を活かした観光振興へ・・県南ではサーフィンなど「モノ」消費から「コト」消費への変化を捉え、「徳島ならではの」自然・文化・体験といった魅力を発信していく必要がある！

関東、海外では「阿波」と「徳島」が十分に結びついていない！徳島の魅力が伝わるよう、ターンテーブルなどによるPR・波及効果をしっかりと検証しながら、戦略的な広告や誘客を行う必要がある。

●徳島へのインバウンド・観光客対応

- 徳島阿波おどり空港 国際線対応新ターミナル増設（1月）
チャーター便就航（1~3月）福岡行き2便化（3月~）
今後は国際線の定期航路化、国内交流人口増加につながる施策が重要！

全県下で交流人口・宿泊者数を増やすため、空港からの2次交通・公共交通の充実が必要であり、観光ルート提案や、徳島でなければ食べられない夕食のメインメニューの考案も急務である。インバウンド増加の波を県南部に波及させるためにも、四国横断自動車道の早期整備が必要である。

その他 経済委員会での質疑

- 経済委員会所管の外部団体への基金(商工2基金、農林6基金)の設置・運用状況 ⇒ 適正である
- LEDデジタルアートフェスティバルの予算審議における透明性の確保
- 農地中間管理機構における転貸状況と今後の展開、条件不利地における状況
- 県農林水産基本計画の達成度の低い項目について、新規就業者の経過について
- 畜産振興(経営安定化基金の運用、繁殖肥育一貫経営の促進など)、公務員獣医師の確保 など